



GENIAC-PRIZE（NEDO懸賞金活用型プログラム）の概要

経済産業省 商務情報政策局

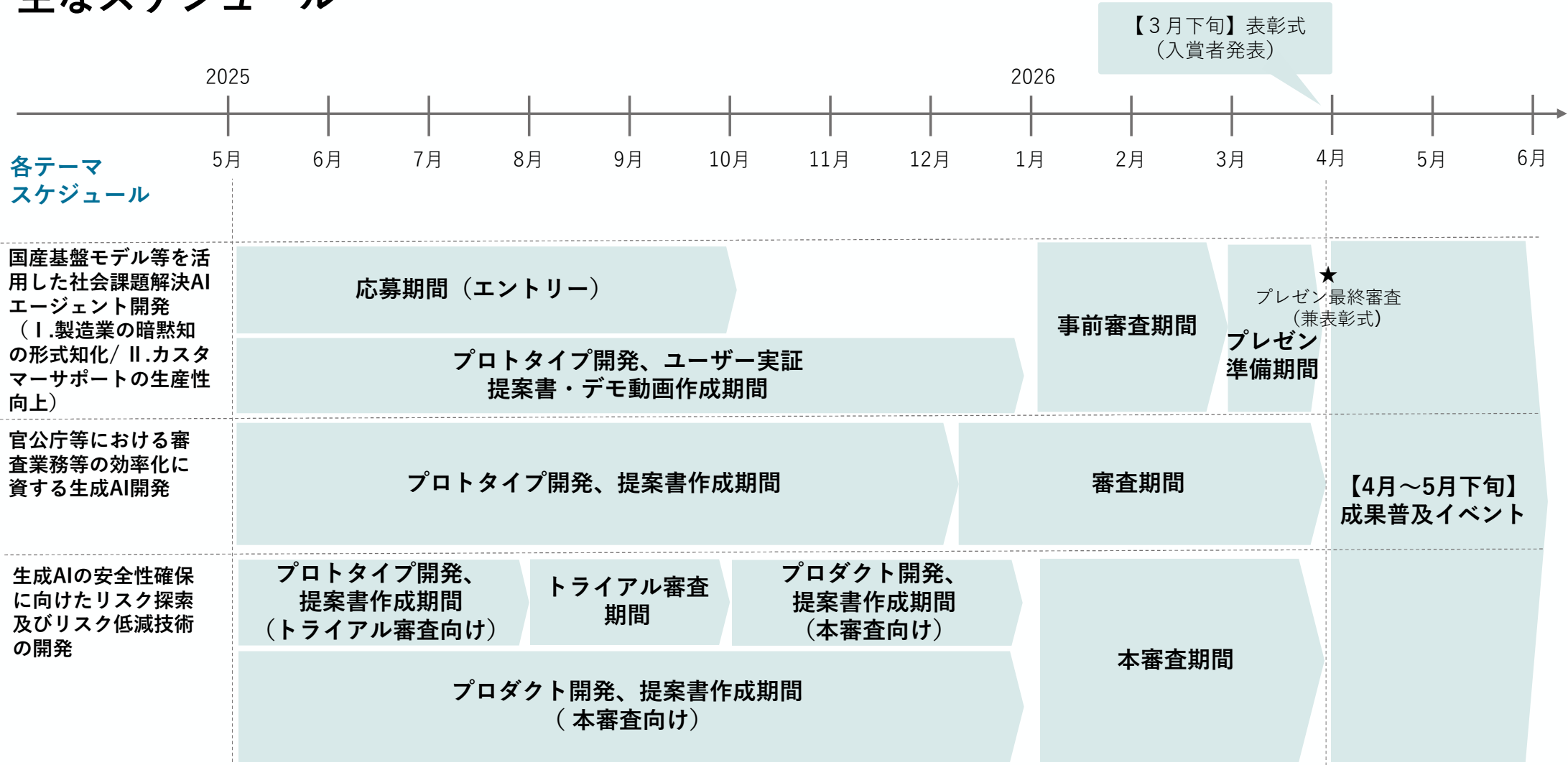
国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

GENIAC-PRIZE（NEDO懸賞金活用型プログラム）の概要

- 生成AIサービスによる解決が望まれるテーマにおける具体的なニーズに基づき、開発・検証した生成AIアプリケーションを申請してもらい、審査を経て、成果に応じた懸賞金を授与する。
- これにより、様々な地域や業種における企業等による生成AIの社会実装を促進する。

テーマ		懸賞金総額
領域 1 民	国産基盤モデル等を活用した社会課題解決AIエージェント開発 （Ⅰ.製造業の暗黙知の形式知化/Ⅱ.カスタマーサポートの生産性向上） ● ユーザーと開発者が連携して申請、ユーザーの変革に繋がる実証成果を審査	3.5億円
領域 2 官	官公庁等における審査業務等の効率化に資する生成AI開発 ● 審査業務として特許審査をモデルとし、情報探索等を効率化するAIを開発、その性能を審査	2.1億円
領域 3 安全性	生成AIの安全性確保に向けたリスク探索及びリスク低減技術の開発 ● AIのリスクや対応策をセットで提案、評価手法の妥当性や波及効果を審査	2.2億円

主なスケジュール



(参考) テーマ間の比較

	国産基盤モデル等を活用した社会課題解決AIエージェント開発 (Ⅰ.製造業の暗黙知の形式知化/ Ⅱ.カスタマーサポートの生産性向上)	官公庁等における審査業務等の効率化に資する生成AI開発	生成AIの安全性確保に向けたリスク探索及びリスク低減技術の開発
応募資格	ユーザー：法人※1 開発者：法人※1、個人 ・原則ユーザーからの応募 ・ユーザー/開発者で組んで応募も可	法人※1のみ	法人※1のみ
懸賞金	各テーマ 1位 5,000万円 2位 4,000万円 3位 3,000万円 +特別賞	1位 1億円 2位 7,000万円 3位 3,000万円 +特別賞	<トライアル審査> 最低500万円×上位数者 <本審査> 1位 7,000万円 2位 5,000万円 3位 3,000万円 +特別賞
応募内容	・提案書 ・デモ動画	・提案書 ・プロトタイプ	・提案書 ・プロトタイプ／プロダクト
国産基盤モデル	開発・実証は必須	活用すれば加点	活用の有無は問わない

※ 法人：日本国内の法人（企業、大学、国研等）及び団体（官公庁、地方公共団体等）

領域①

**国産基盤モデル等を活用した社会課題解決 AI エージェント開発
(製造業の暗黙知の形式知化/カスタマーサポートの生産性向上)**

目的・背景、応募者に求める提出物

目的・背景

目的：社会課題解決のための国産基盤モデル等を活用したAIエージェントの開発・実装を促進する

背景：

- ・ 日本国内では労働者不足や後継者不足といった社会課題が顕在化しており、業務の生産性向上や技術継承が急務である。
- ・ 他方、生成AIは、様々な社会課題の解決に資することが期待され、経産省・NEDOが立ち上げたプロジェクト（GENIAC）で高性能の国産基盤モデルが開発されている。

本プログラムでは、生成AIによる経済インパクトが大きく期待できる以下の2テーマを公募する。

- I. 製造業の暗黙知の形式知化：**国内製造業は深刻な人手不足と熟練工の技術継承の課題を抱えている。生成AIの活用によって、熟練工の暗黙知を形式知に変換し、技術伝承や生産性向上が期待される。
- II. カスタマーサポートの生産性向上：**カスタマーサポートは高い離職率や採用難による人手不足が深刻である。生成AIの顧客対応品質への懸念があるが、企業内データの学習等によって生成AIのさらなる活用が期待される。

提出物

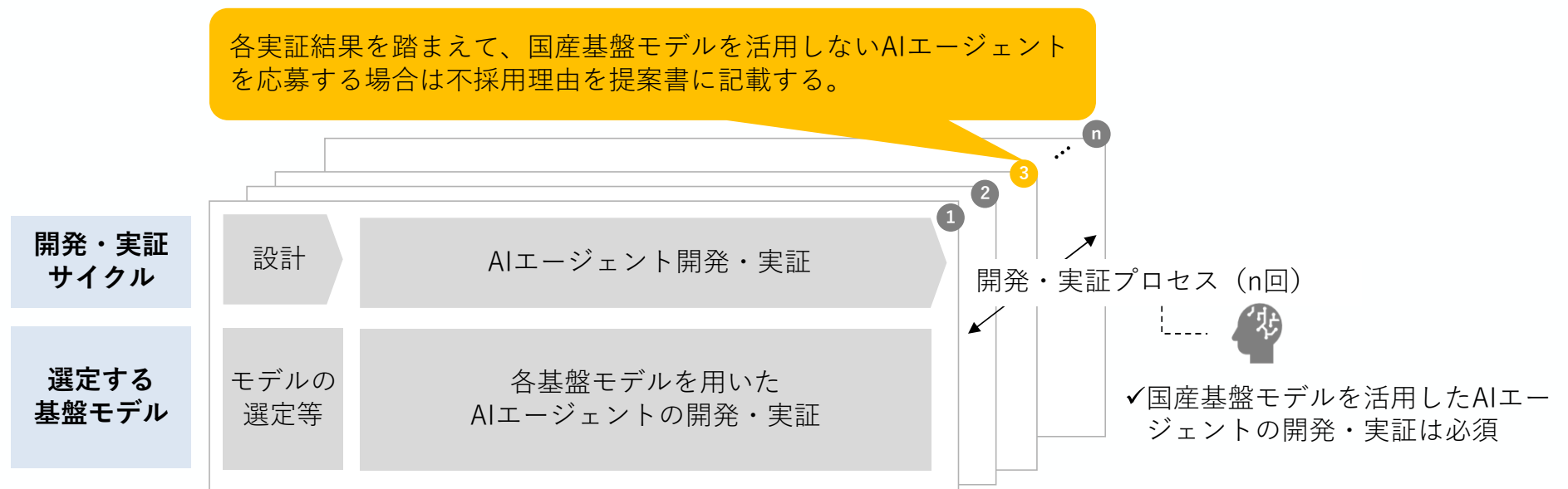
ユーザー※¹にて、上記テーマに即したユースケースと課題の設定、解決手法の立案、AIエージェントの開発・実証を行い、提案書とデモ動画※²を提出いただく。

※ 1 AIエージェント利用者。AI開発者やSIer等が組んで参加することも可能

※ 2 デモ動画は、実証の様子、AIエージェントの機能・使い方がわかるもの。原則5分以内とする。

国産基盤モデルの活用に関して

- 国産基盤モデル※を活用しないA Iエージェントの応募も可能とする。（活用の有無による加点・減点はない）
- ただし、国産基盤モデルを活用したA Iエージェントの開発・実証は必須とする。
 ※国産基盤モデルを活用したA Iエージェントに応募する場合：採用したモデルの採用理由を提案書に記載する。
 ※国産基盤モデルを活用しないA Iエージェントに応募する場合：比較検討した国産基盤モデルの不採用理由を提案書に記載する。



※国産基盤モデルリストを公開予定

- GENIAC採択事業者の基盤モデル以外も含め、事務局が認める国産基盤モデルを、その開発事業者の了解の下でリストに登録する。リストへの登録を希望する国産基盤モデルも募集を行い、事務局で評価の上、順次リストに登録する。

審査基準

- 選定したユースケース、ユースケース実現に向けた取り組み（ユーザー企業の変革とAIエージェント開発）、実証成果に対して下記の審査基準で事前審査・プレゼン審査を行う。
- 提案書と実証の様子をまとめたデモ動画にて上位者を事前審査で選定。一般公開のプレゼン審査にて最終順位を決める。

審査項目	審査内容	審査委員
ユースケースの波及効果	・ユーザーの現状の業務やシステムを分析し、具体的且つ実現可能なユースケースが設定できているか。 ・またユースケース実現のための課題設定が正しいか。 ・コスト対効果を考慮し、生産性向上など大きなインパクトを与えるか。他企業に参考になり、業界全体に対してインパクトを持つか。	次ページ参照
ユーザーの変革	・ユーザーの業務プロセス改革が、効果的に実施できているか。事業部門・情報システム等関係部門の連携が有機的に行われているか。 ・開発者とユーザーのコミュニケーションを工夫する等、AIエージェント要件定義に手戻りが発生しないように取り組んでいるか。 ・AIエージェント開発・実証にあたって、ユーザー側が自律的に検討し、関与できているか（開発者に丸投げになっていないか） ・AI開発に関する知識・ノウハウがユーザー内に蓄積され、継続的な改善が可能な体制が構築されているか。	
AIエージェントの優位性	・技術的革新性があり、既存のサービスや競合他社に類似するものがないか。 ・プロトタイプのパフォーマンス（回答精度、速度、安定度、ユーザビリティ）が優れているか。 ・ユーザーからのフィードバックを反映する技術的な仕組みが整っているか。 ・単一のモデルの評価にとどまらず、外部ツールや複数モデルを組み合わせたAIエージェントの多段階評価がおこなわれているか。	
実証成果	・実証の実施方法が明確であるか。実証結果は再現性もあり、信頼できるものか。 ・ユーザーからフィードバック評価が得られているか。ユースケースは実現できたか、残された課題と改善点が整理できているか。	
国内基盤モデル開発への貢献	・国内で開発された基盤モデルの利活用の推進にとって有益なフィードバックがあるか。 ※事務局が国内基盤モデル開発事業者にフィードバック	
公共性	・他の事業者にとって有用な技術・ノウハウを広く提供しているか。オープンソース化等の予定があるか。	
市場開拓	・AIエージェントについて、市場展開していく事業計画があるか、さらに海外展開も視野に入れているか。	
顧客視点 ※カスタマーサポートのみ	・カスタマーサポートを受ける顧客にも恩恵があるか。 ・顧客体験に差別化要素があるなど、ユーザーのビジネスに付加価値を与える取組か。	

テーマⅠ

製造業の暗黙知の形式知化

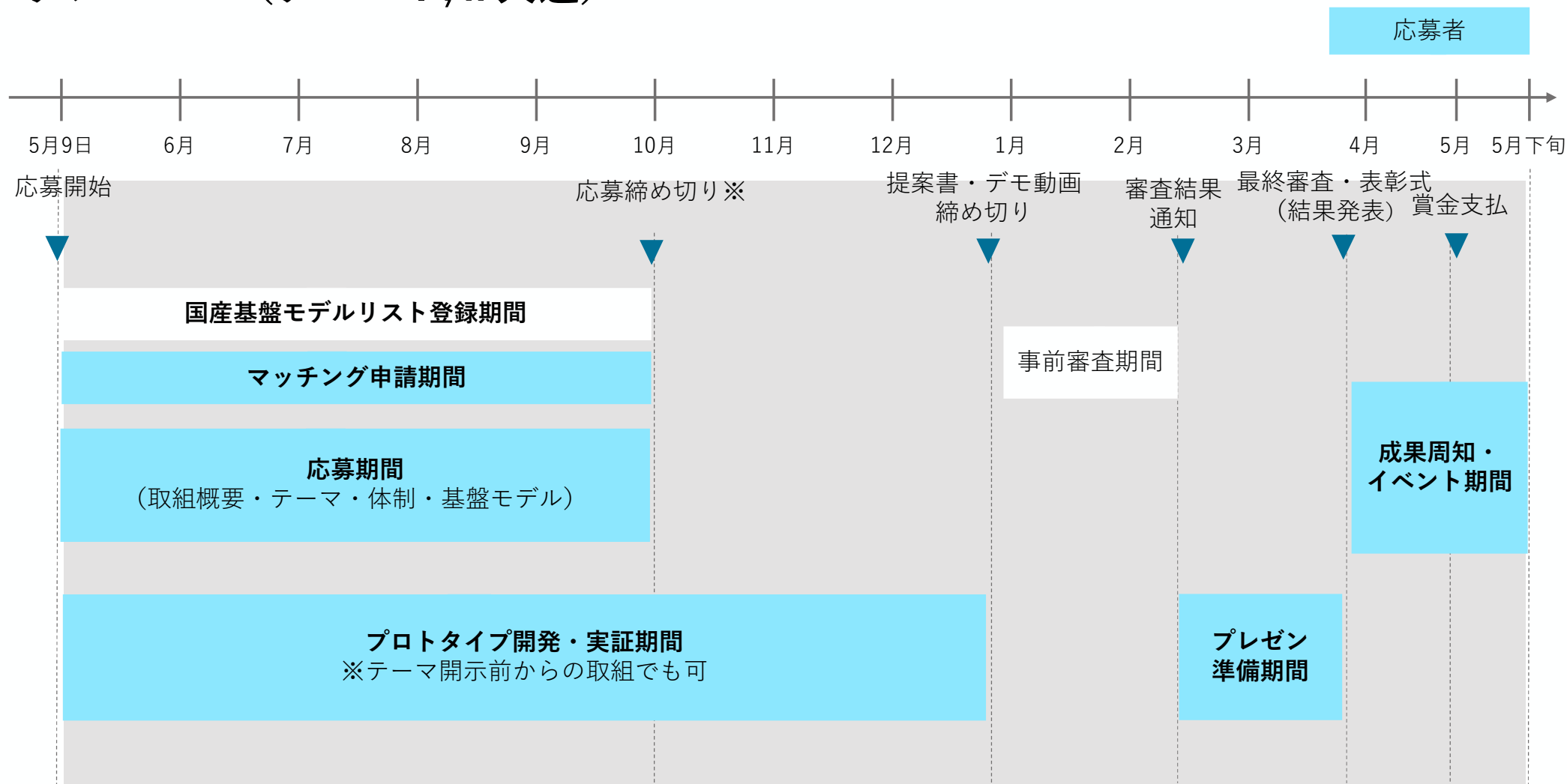
審査員名	所属情報など
井崎 武士	エヌビディア合同会社 エンタープライス事業本部 事業本部長
北野 宏明	ソニーグループ株式会社 チーフテクノロジーフェロー
杉山 俊幸	日経BP 総合研究所 チーフコンサルタント 主席研究員
馬場 雪乃	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授
湯浅 エムレ 秀和	グロービス・キャピタル・パートナーズ株式会社 パートナー

テーマⅡ

カスタマーサポートの生産性向上

審査員名	所属情報など
岡田 隆太郎	一般社団法人日本ディープラーニング協会 専務理事
白井 恵里	株式会社メンバーズ 執行役員・ メンバーズデータアドベンチャーカンパニー 社長・ 一般社団法人Generative AI Japan 理事
松尾 豊	東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター／技術経営 戦略学専攻 教授 ・ AI戦略会議 座長
村上真奈	エヌビディア合同会社 ソリューションアーキテクトマネー ジャー
矢島 竜児	株式会社リックテレコム 取締役 月刊コールセンタージャパン編集長
山下辰巳	HDI-Japan 代表取締役CEO

スケジュール（テーマⅠ,Ⅱ 共通）



※応募（エントリー）締め切り日は延長の可能性あり。 10

懸賞金等のインセンティブ

懸賞金等の インセンティブ

懸賞金

- 各テーマの総合点 1～3位に懸賞金を授与
 - 1位：5,000万円、2位：4,000万円、3位：3,000万円
- 審査員特別賞※（各テーマ 複数者）
※特定の項目等に秀でた応募者に授与予定。

PR支援

- 総合点 1～3位：表彰式への招待、GENIACのイベントでのPR支援
- 全ての応募者※：
 - 応募概要（提案書の一部）の特設サイトでの公表
 - 成果普及イベントへのご招待

※著しく提案内容が目的に合致しない場合は、公表/招待しないこともあり得る。

その他補足事項

その他 補足事項

マッチング希望について

- ・ 応募に向けて、ユーザーまたは開発者とのマッチングの希望者を募集する。
- ・ 希望者同士がコミュニケーションを取れる場を用意する。

応募期間（5月～9月末※）について

- ・ 下記の項目に関し、応募フォームから提出頂く。
取組予定の内容、選択テーマ(IまたはII)、利用する基盤モデル、体制（ユーザー、開発者）
- ・ 応募期間は、審査員による審査及び評価は行わない。事務局が懸賞広告との合致性を確認する。

確認項目	確認内容	確認者
懸賞広告との合致性	・ 取組概要は、懸賞金のテーマに合った取組か ・ 国内で開発された基盤モデルの開発・実証予定があるか ・ ユーザー、開発者が明確か（内製含む）	事務局

- ・ 本懸賞広告との合致性が認められない場合は、応募は無効とするが、応募期間中に応募内容を修正の上、再応募することを可能とする。

※応募（エントリー）締め切り日は延長の可能性あり。

領域②

官公庁等における審査業務等の効率化に資する生成 AI 開発

目的・背景、応募者に求める提出物

目的・背景

目的：官公庁のニーズとAI開発者のシーズをすり合わせ、官公庁へのAI導入に繋がる契機とする

背景：

- 官公庁でのAI利用は職員の生産性向上、ひいては国民への行政サービスの充実化に繋がることが期待される。ベンダー観点で言えば実績獲得や公共部門への参入障壁低減が期待される。このように、官公庁へのAI実装は、日本国民への裨益性が高く、社会的インパクトが大きいといえる。
- 他方、官公庁へのAI実装は途上（＝官公庁が有望なユースケースや開発者を特定できていない等）であり、開発コストや運用コストの増加がAI実装の普及展開の足かせになるおそれがある。

提出物

審査業務を効率化するAI（プロトタイプ※）・技術（提案書）

- 多くの官公庁の共通ニーズである「審査業務の効率化」に焦点を当て、①当該業務を効率化するAI、②開発コストや運用コストを抑え多くの官公庁へのAI導入ハードルを低減する「横展開性がある技術」を募集する。
- 本事業での具体的な審査業務として「特許審査業務（先行技術の探索、参照箇所の提示等からなるタスク）」をモデルとする。
- 具体的には、出願に一致する文献の参照、一致箇所の表示、類似根拠を自然言語で説明できる機能を実装したAI書面において、これら機能を実現する技術や、開発・運用コストを低減するアーキテクチャの提案を求める。

※プロトタイプとは、提案書に記載の内容を具体的な処理や動き等によって確認できるソフトウェアのことを指す。

審査基準及び審査員

審査対象	審査項目	審査内容	審査委員
プロトタイプ	情報探索の性能	・審査対象である出願と一致する文献を探索し、当該文献を適切な分量で参照できているか。	特許庁
	一致箇所表示の性能	・参照した文献と出願との一致箇所を特定、適切な範囲で表示できているか。	
	判断根拠の出力性能	・情報探索や一致箇所表示の結果について、生成AIがそのように判断した根拠を、特許審査官が理解可能な適切な自然言語で表示できているか。	
	ユーザビリティ	・生成AIが特許庁の実際の業務への適用を想定したものであり、適切なユーザインタフェースを備え使い勝手が良いか。	
提案書	技術的優位性 (※1) (※2)	・生成AIについて、増加する業務関連データへの対応や柔軟な改良を可能とするアーキテクチャの構築等、継続的な性能向上の余地がある技術や、既存の複数タスクを一連の処理で実行するエージェント等の技術を活用した提案であるか。	官公庁 (東京都、広島県、 大阪市、神戸市、 北九州市等)
	技術的横展開性及び 導入メリット	・従来の開発コストや運用コストを低減すること（単一の業務領域のデータに留まらず異なる業務領域のデータも効率的に取り扱える、部品や機能等の再利用や標準化がなされている等）が可能なアーキテクチャを提案しているか。 ・上記アーキテクチャを具体的なモデルケースに適用した場合の導入メリットを適切に示しているか。（～といった業務モデルにおいて従来の開発・運用コストをX%低減、等）	民間企業等 (東京海上HD、 GovTech東京、AI ガバナンス協会 等)

(※1) 国内で開発された基盤モデルを活用している場合は加点を行う

(※2) [DeepSeek 等の生成 AI の業務利用に関する注意喚起（事務連絡）](#) を参照

懸賞金等のインセンティブ

懸賞金等の インセンティブ

懸賞金

- 総合点 1 ～3位に懸賞金を授与
 - 1位：1億円、2位：7,000万円、3位：3,000万円
 - 特別賞※

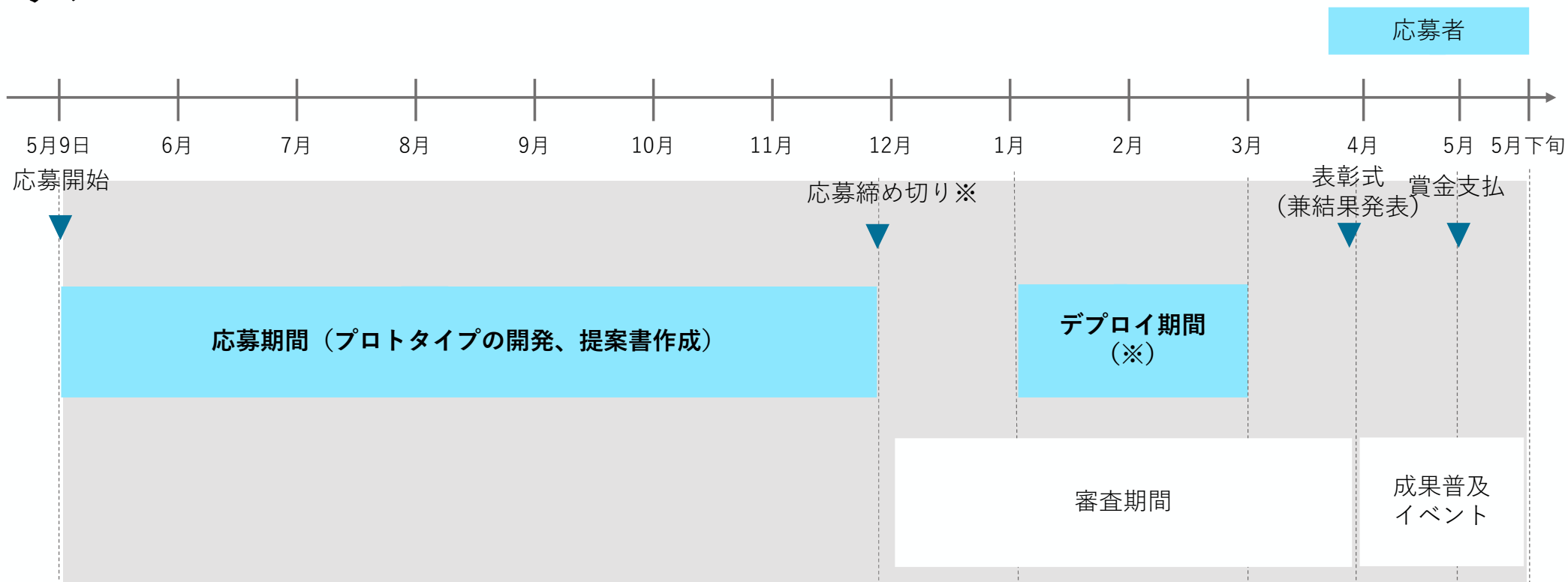
※特定の項目等に秀でた応募者に授与予定。

PR支援

- 総合点 1 ～3位：表彰式への招待、 GENIACのイベントでのPR支援
- 全ての応募者※：
 - 応募概要（提案書の一部）の特設サイトでの公表
 - 成果普及イベントへのご招待

※著しく提案内容が目的に合致しない場合は、公表/招待しないこともあり得る。

スケジュール



※デプロイ期間について

- 応募者に、審査員による生成AIの性能審査のためデプロイする期間（1週間程度）を事前に告知する
- 性能審査時の想定
 - 期間：2026年1～3月のうち、5営業日（1日あたり8時間程度）/者
 - 操作者：事務局および審査員（10名程度）
 - 動作環境：事務局および審査員PCから応募者がデプロイした環境にアクセス

※応募（エントリー）締め切り日は延長の可能性あり。

領域③

生成AIの安全性確保に向けたリスク探索及びリスク低減技術の開発

目的・背景、応募者に求める提出物

目的・背景

目的：生成AIの安全性に関わるリスクを明らかにしつつリスクを低減する技術開発を促進し、生成AIの社会全体における利活用の促進に繋げる

背景：生成AIにおけるリスク特定および対策技術開発の必要性

- 生成AI（定義：文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称）は、新たなコンテンツ（テキスト・画像・音声など）を出力する創造的なタスクを処理する。
 - **リスク特定の必要性：**上記性質から、生成AIの利活用時に具体的にどのようなリスクが生じるかという点について、国際的にも共通の理解が醸成されておらず、リスクを示すことそれ自身が非常に困難。一部のリスクは既に社会に認識されているものの、具体的なリスクを網羅的に示すことは難しい。
 - **対策技術の必要性：**様々なリスクを低減する対策技術についても、十分とは言えない状況。

提出物

書面によるリスクと技術の提示およびデモ実演に用いる技術の提示

- リスクの特定と技術の説明（書面）、技術そのものの提示（デモ実演）を求める。
- デモ実演では、トライアル審査は「プロトタイプ」、本審査は「プロダクト」を対象とする。
 - ＜プロトタイプ※の定義＞（※当該技術を用いた製品の販売有無は問わない）
 - 応募者が提案する技術が、特定した**リスクを低減するという目的において有効である可能性を示すことができる**状態であるもの
 - ＜プロダクト※の定義＞（※当該技術を用いた製品の販売有無は問わない）
 - 応募者が開発した技術が、特定した**リスクを低減するという目的において有効であることを示すことができる**状態であるもの
 - 技術的な専門性を有する者であれば応募者側・事務局・審査員を問わず、審査期間中にテストを実施することができる状態であるもの
- リスクの妥当性・影響度にかかる根拠、該当するリスクを低減する技術及びその評価手法の妥当性や課題にかかる根拠、新規性にかかる根拠、技術の公開度にかかる情報などの提示を提案書にて求める。

審査基準

トライアル審査においては提案の妥当性、本審査においては技術の有効性や公共性を重視する

○トライアル審査

審査項目	審査内容
懸賞広告との合致性（必須）	・生成AIの安全性に関わるリスクの特定 ・当該リスクを低減する技術を提案 ・プロトタイプの提示
特定したリスクの評価	・特定したリスクの妥当性や影響度
対策技術（プロトタイプ）の評価	・提案する対策技術（特定したリスクに対する低減手法）の妥当性 ・提案する対策技術（特定したリスクに対する低減手法）において目標（可能な限り定量的な目標）とする技術レベル・性能の妥当性 ・提案する対策技術の評価手法の妥当性
新規性の評価	・新規性（応募者が提示する根拠の妥当性を含む）
公共性の評価	・成果の公開度

○本審査

審査項目	審査内容
懸賞広告との合致性（必須）	・生成AIの安全性に関わるリスクの特定 ・当該リスクを低減する技術を提案 ・プロダクトの提示
特定したリスクの評価	・特定したリスクの妥当性や影響度
対策技術（プロダクト）の評価	・提案する対策技術（特定したリスクに対する低減手法）の妥当性 ・提案する対策技術の評価手法の妥当性 ・開発した対策技術（特定したリスクに対する低減手法）の性能評価の結果
新規性及び将来性の評価	・新規性（応募者が提示する根拠の妥当性を含む） ・将来性（対策技術の課題点を把握できているかという観点を含む）
公共性の評価	・成果の公開度 ・ 国民生活や社会への波及効果

審査員

審査員名（敬称略）	所属情報など
大塚 玲	人工知能学会 安全性とセキュリティ研究会(SIG-SEC) 主査 情報セキュリティ大学院大学 教授
小田 悠介	国立情報学研究所（NII）特任准教授 シェルパ・アンド・カンパニー株式会社 AI事業部テクニカル・ディレクター
加藤 敏洋	独立行政法人情報処理推進機構（IPA） AIセーフティ・インスティテュート（AISI）研究員
関根 聡	国立情報学研究所（NII） 科学主幹 特任教授
津田 麻紀子	西村あさひ法律事務所 弁護士
浜谷 千波	アドソル日進株式会社 執行役員 AI研究所部長
村川 正宏	産業技術総合研究所 インテリジェントプラットフォーム研究部門 研究部門長
森 正弥	博報堂DYホールディングス 執行役員兼CAIO

懸賞金等のインセンティブ

懸賞金等の インセンティブ

懸賞金（トライアル審査）：

➤ 審査にて高評価を得た応募者に対し、最低500万円を分配

- ◇ 審査の結果、評価点が必要な基準に到達していない場合、応募要件に即していないと判断された場合には、懸賞金は支払われません。
- ◇ トライアル審査において懸賞金を獲得した応募者は、原則本審査への応募を必須とします（本審査には、トライアル審査において応募した内容で応募することを原則必須とします）。トライアル審査において懸賞金を獲得した応募者が本審査に応募しなかった場合、トライアル審査において獲得した懸賞金は原則全額返金いただきます。

懸賞金（本審査）：

➤ 1位：7,000万円、2位：5,000万円、3位：3,000万円

※このほか、新規性や将来性において、高い評価を受けた応募者には、特別賞を付します。
審査の結果、評価点が必要な基準に到達していない場合、応募要件に即していないと判断された場合には、懸賞金は支払われません。

PR支援：

- 総合点1～3位、特別賞受賞者：表彰式への招待、GENIACのイベントでのPR支援
- 全ての応募者※1：

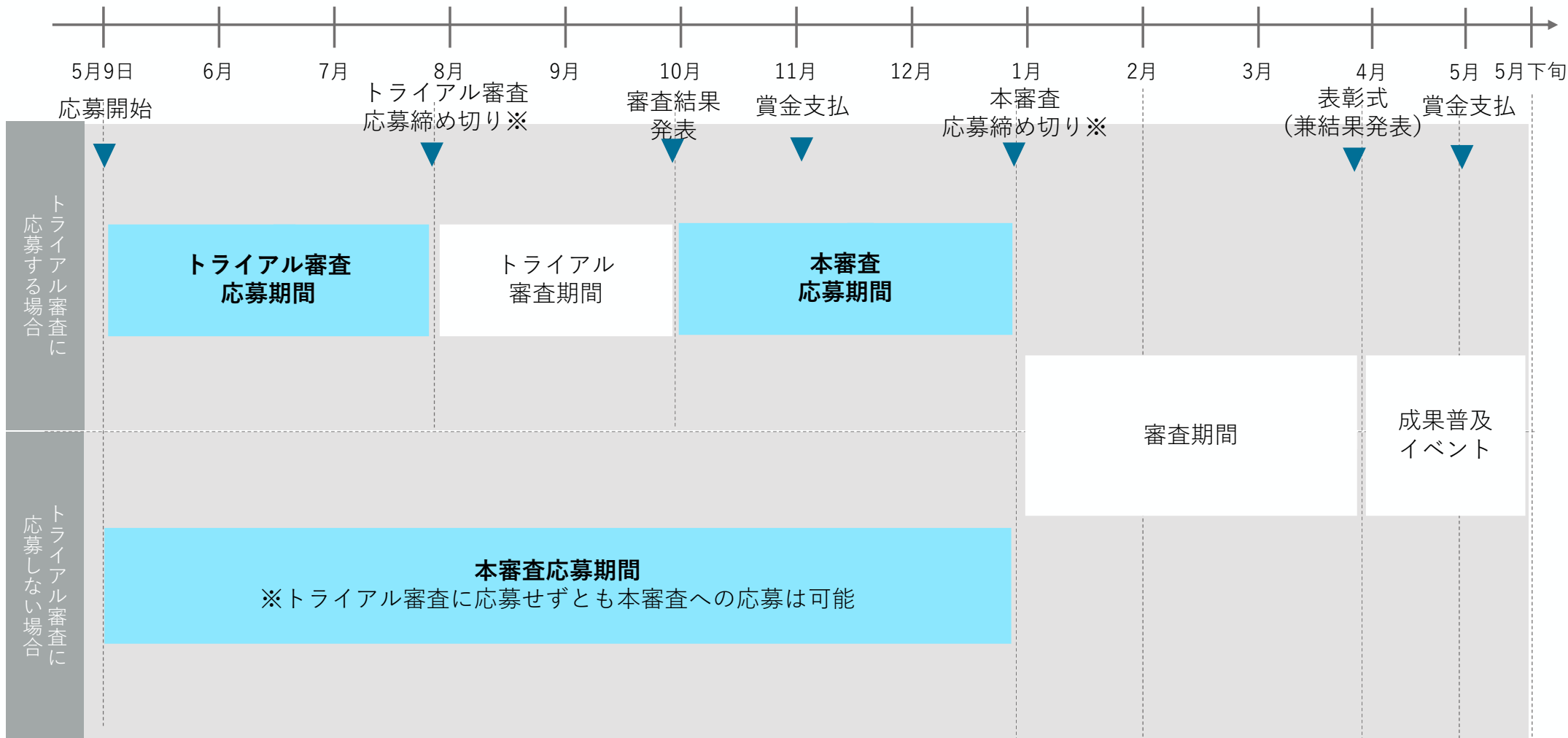
- ・ 応募概要（提案書の一部）の特設サイト等での公表※2
- ・ 成果普及イベントへのご招待
- ・ 技術段階によって、応募者を国立研究機関・政府機関などと連携

※1）著しく応募内容が目的に合致しない場合は、公表/招待しないこともあり得ます。

※2）原則、応募いただいた内容の全てを、特設サイト等において公表します。特設サイトURLはNEDOの公募ページを参照ください。なお、応募者の事前の申し出により応募内容における公表の範囲を限定することは可能であるため、限定する範囲及びその理由についても併せて提案書に記載してください。

スケジュール

応募者



※応募（エントリー）締め切り日は延長の可能性あり。

(参考) GENIAC-PRIZEロゴ



古代より「栄光」と「知の勝者」を称える象徴として使われる月桂樹、
近未来さを感じさせるフォントの「GEINAC」、
対照的に洗練された印象を感じさせるフォントの「PRIZE」。
これらを組み合わせ、GENIAC-PRIZEの権威性と名誉を表現。